

KLASS
つなぐ。ツクル。

2026年9月期

決算補足説明資料

2026年11月

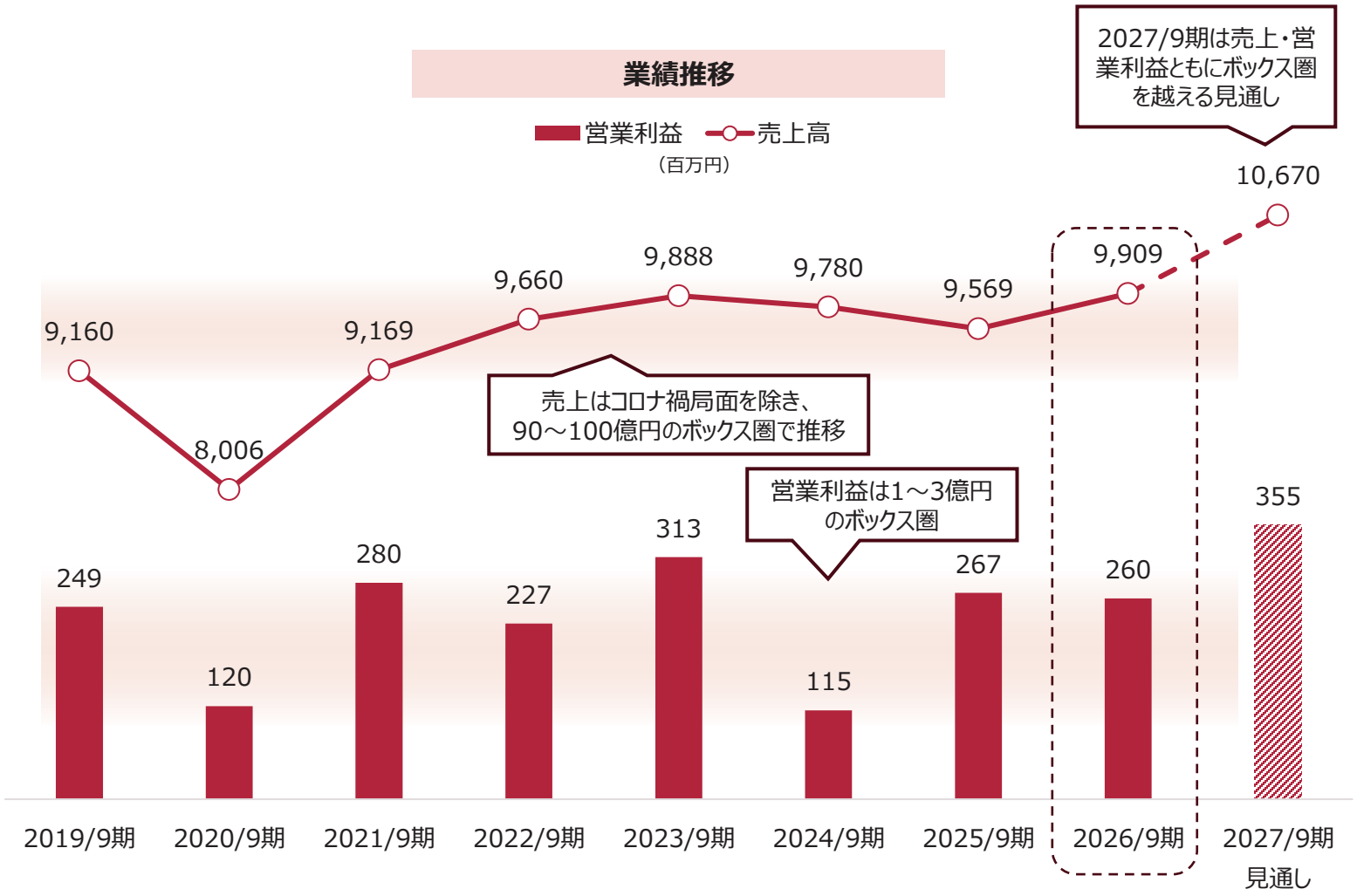
6233
東証スタンダード

KLASS株式会社

©KLASS Corporation

エグゼクティブサマリ①　業績サマリ

- 2026/9期は前期比増収で過去最高ながらも、営業利益は微減。営業利益は上期時点では上場来最高を更新したものの、下期は大型案件一巡もあり、前期並みに落ち着く
- 売上・利益ともに成長を担うインダストリーセグメントが牽引。一方、プロフェッショナルセグメントの回復の立ち遅れが重石に
- 2027/9期は増収増益を予想。売上・利益ともにこれまでのボックス圏からの脱却を見込む。成長の牽引役は顧客と案件の拡大を進めるインダストリーセグメント



©KLASS Corporation

2026/9期決算概要

KLASS
つなぐ。ツクル。

©KLASS Corporation

2026年9月期決算概要

- 前期比で増収減益。設備投資需要を受注に結び付けた産業機器等のインダストリーセグメントが唯一好調を維持したものの、その他３セグメントは営業減益
- プロフェッショナルは住宅建設費高騰による工事案件減少やナフサ不足懸念による工事資材の高騰と供給不足が発生。コンシューマも、防音防振用特殊機能マットなどで新規需要開拓を進めるも、勢いを欠く展開。ニュー・インダストリーも大型受注案件が伸び悩み
- 対従来予想比ではインダストリー・ニュー・インダストリー以外は売上・利益とも想定未達

（百万円）	2025/9期	2026/9期				
		予想 (2025/11/14)	実績	予想比 増減額	前期比 増減額	前期比 増減率
売上高	9,569	11,000	**9,909**	▲1,090	+340	+3.6%
プロフェッショナル	6,752	7,600	**6,809**	▲790	+57	+0.9%
コンシューマ	745	950	**745**	▲204	▲0	▲0.0%
インダストリー	1,227	1,600	**1,631**	+32	+404	+33.0%
ニュー・インダストリー	844	850	**722**	▲127	▲122	▲14.5%
営業利益	267	380	**260**	▲119	▲6	▲2.5%
プロフェッショナル	▲90	63	**▲108**	▲171	▲18	▲20.2%
コンシューマ	20	42	**5**	▲36	▲14	▲72.9%
インダストリー	239	250	**293**	+43	+53	+22.4%
ニュー・インダストリー	97	25	**69**	+44	▲27	▲28.2%
EBITDA	454	575	**456**	▲119	+1	+0.4%
経常利益	250	370	**209**	▲160	▲41	▲16.4%
親会社株主帰属当期純利益	172	235	**149**	▲85	▲22	▲13.2%
営業利益率	2.8%	3.5%	**2.6%**	▲0.8pt	▲0.2pt	–
EBITDAマージン	4.8%	–	**4.6%**	–	▲0.2pt	–

※本資料におけるニュー・インダストリーセグメントの営業利益は単体決算の数値です。なお連結決算では48百万円です。

©KLASS Corporation

セグメント状況① プロフェッショナル

3期連続の営業赤字。高付加価値の畳関連機械の回復に遅れ

インテリア

- 総合カタログ刷新により販売強化
- しかし、ナフサ不足懸念などにより売れ筋消耗品等の供給不足、受注停止が発生

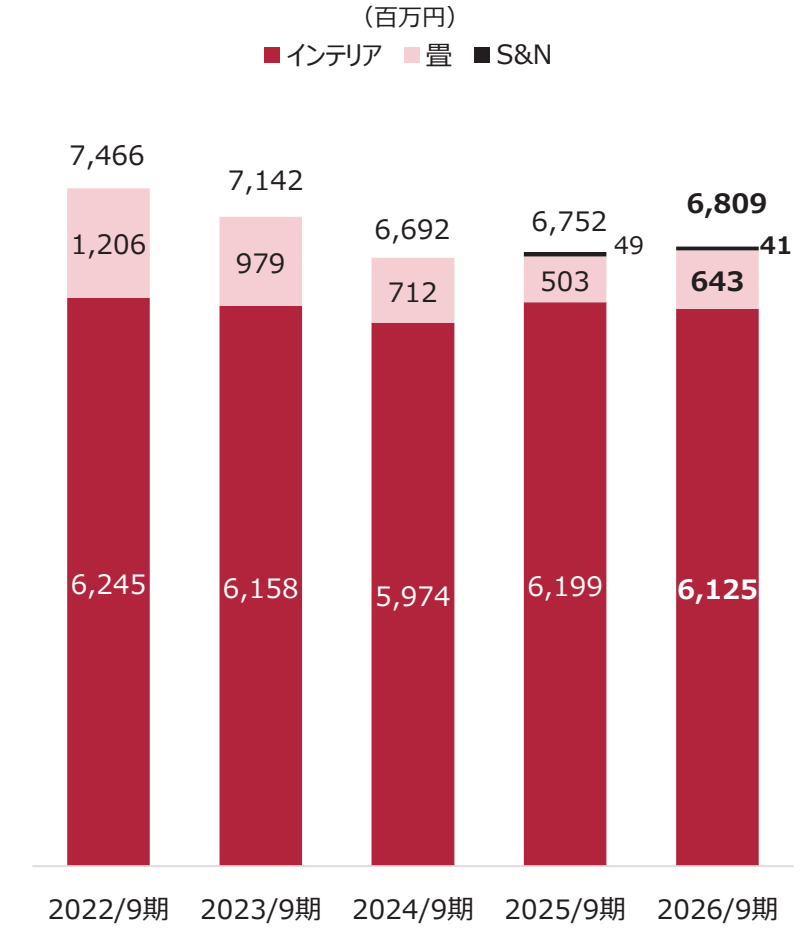
畳

- 「畳店経営の構造改革」の提案や工具等のネット販売、ものづくり補助金活用案件を推進
- 回復には転じたものの、そのピッチはまだ鈍い

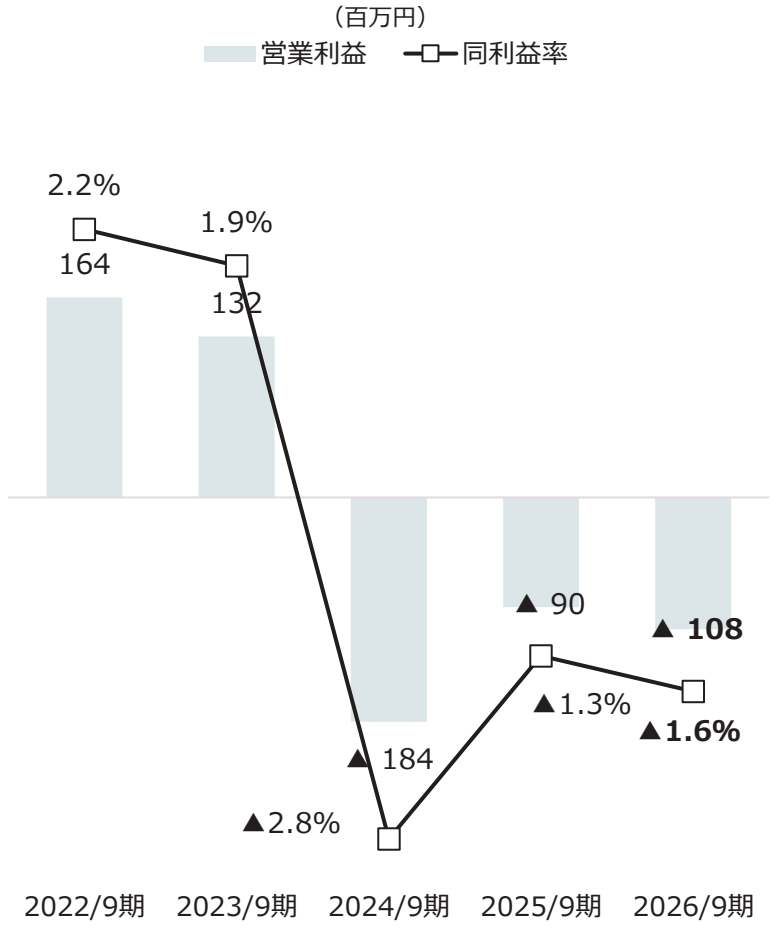
ソリューション＆ネットワーク(S&N)

- 顧客開拓に時間を要す。補助金を活用したクラウドツールのセット販売が伸び悩み

売上高推移



営業利益推移



©KLASS Corporation

セグメント状況② コンシューマ

営業黒字は維持したものの、減益。鈍い成長スピード

コンシューマ

- 生産の国内シフトが奏功した棺用畳で競争激化が発生
- 防振・防音用特殊機能マットは用途が拡がり、市場規模拡大に期待
- 畳張替え仲介案件は増加

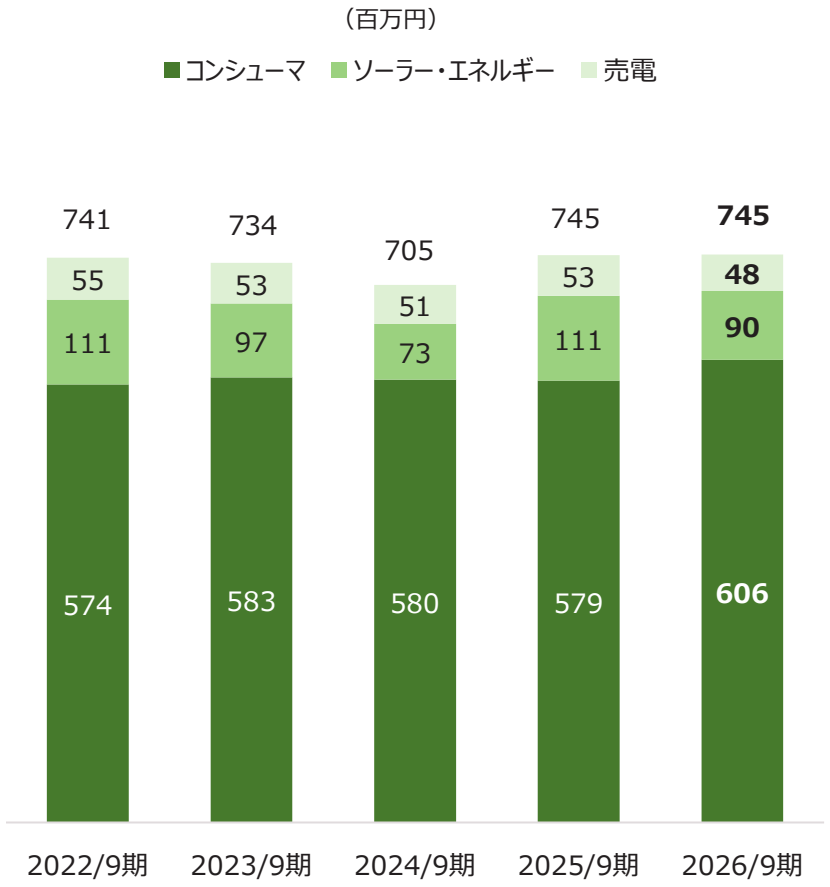
ソーラー・エネルギー

- 大型案件の売上計上は翌期に持ち越し

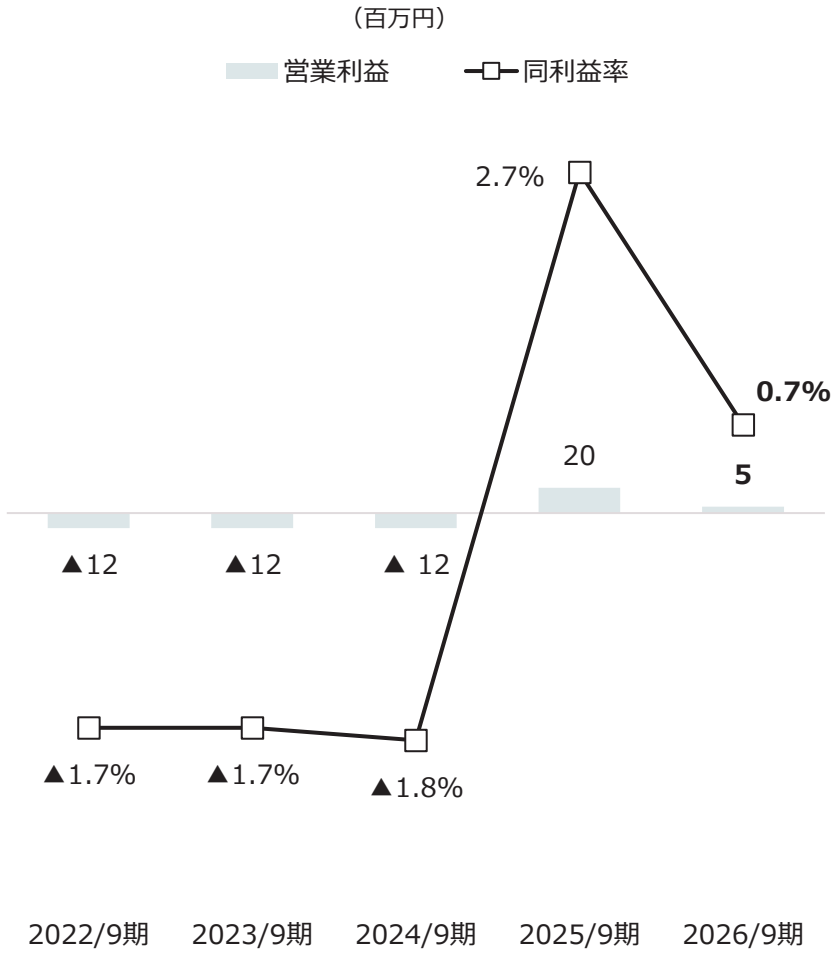
売電

- 「三日月サンシャインパーク」をはじめとする売電事業は順調に稼働。ただし、関西電力からの出力抑制の要請が増加し、減収

売上高推移



営業利益推移



©KLASS Corporation

セグメント状況③　インダストリー

設備投資需要を受注に結び付け好調。業績は過去最高に肉薄

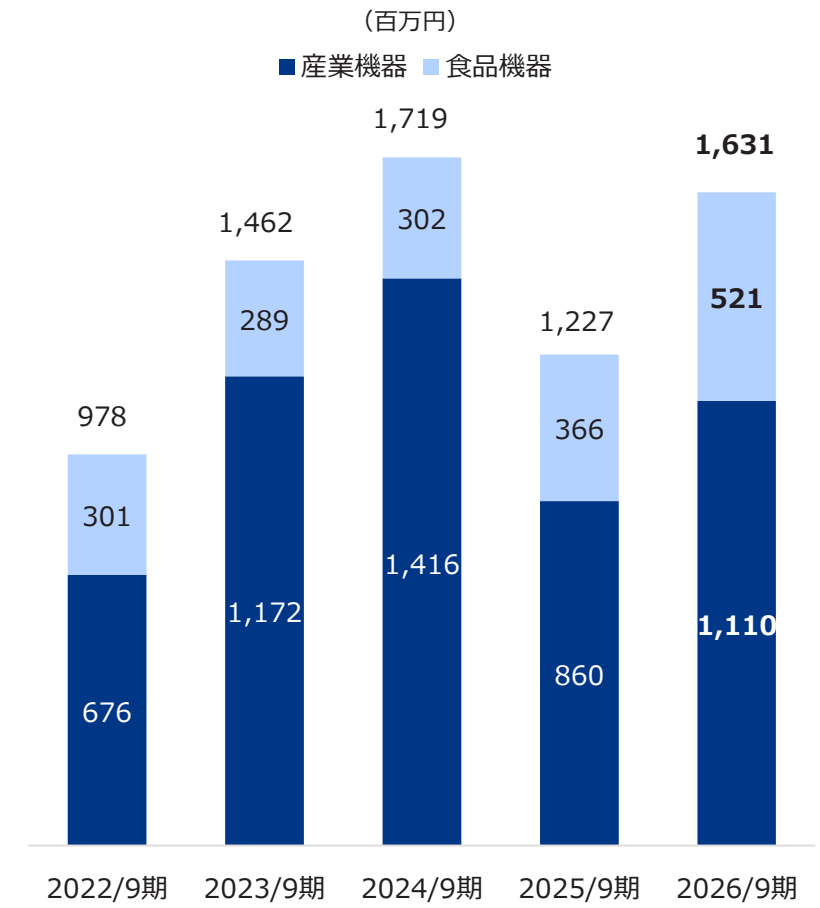
産業機器

- 二次電池製造装置で継続受注
- 脱炭素関連装置に加え、温度センサー製造装置など新分野の受注も獲得

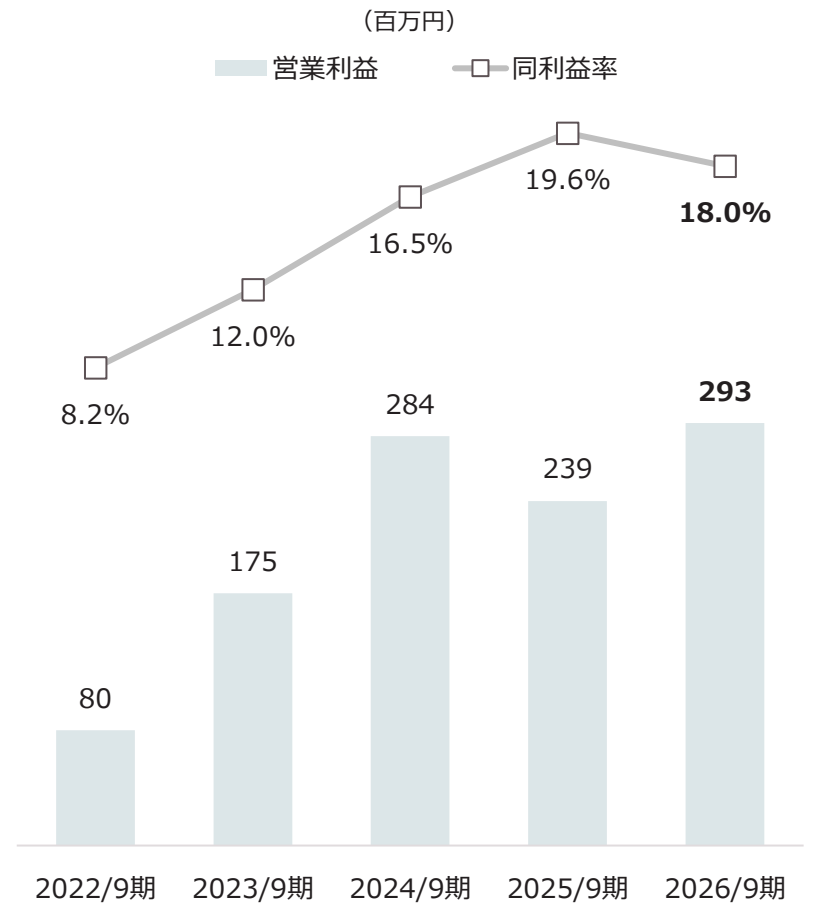
食品機器

- 大手回転寿司チェーンからマルチディスペンサーの大規模な入れ替え案件を受注

売上高推移



営業利益推移



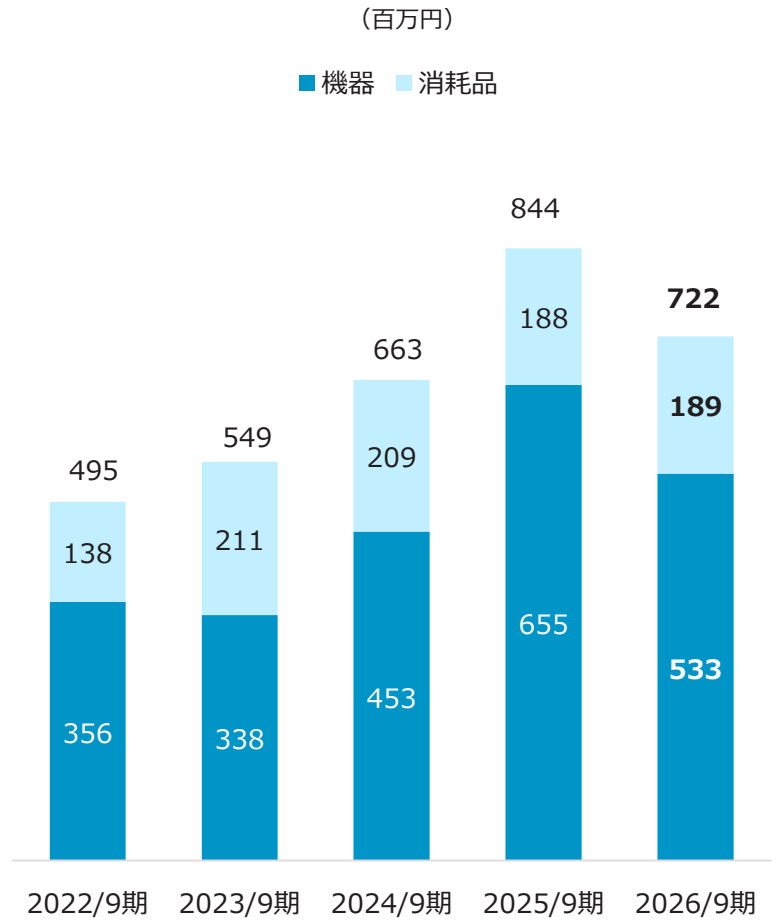
©KLASS Corporation

セグメント状況④　ニュー・インダストリー

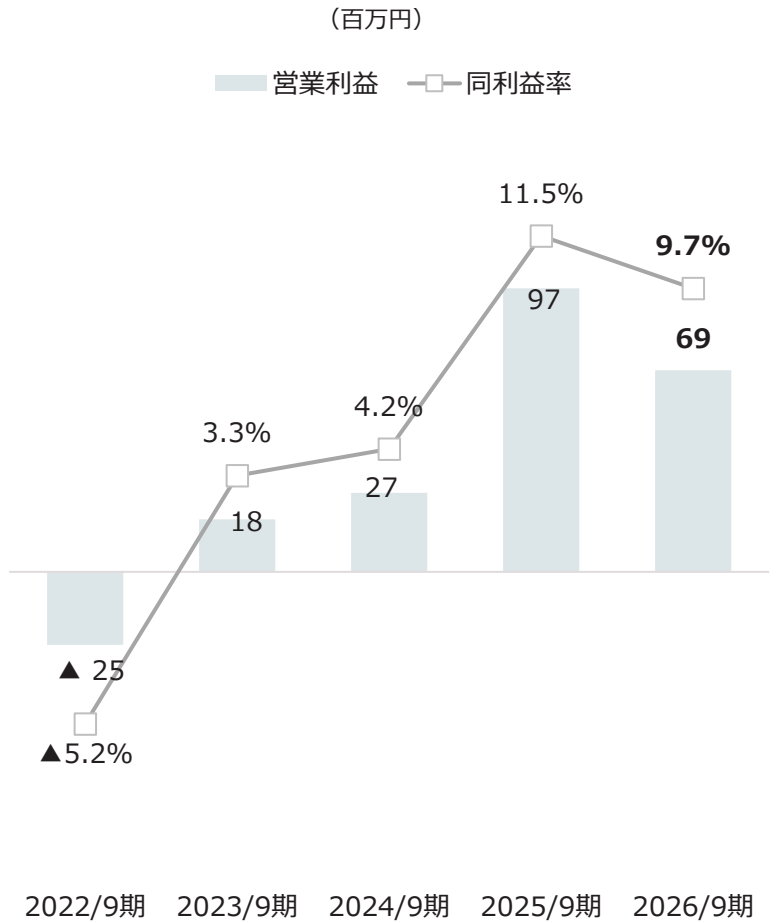
高水準維持も、自動車産業向け大型案件が減少

- 自動車産業向け大型案件が少なく、業績はやや低調
- なお、インダストリーセグメントの売上げ案件、「温度センサー製造装置」の開発にロボット技術を活用。期待したシナジー効果を発揮

売上高推移



営業利益推移



©KLASS Corporation

半期別概況

- 2026/9期を半期別にみると、下期は対前年で売上・損益ともはほぼ横ばい
- ただし、対上期比では減収減益。インダストリーを除く3セグメントは営業赤字を計上
- 成長を担うインダストリーは上期の納期集中傾向が継続。主力のプロフェッショナルでは値上げ前の駆け込み需要の反動は解消したものの、ナフサ不足懸念による売れ筋消耗品等の供給不足が影響

（百万円）	2024/9期		2025/9期		**2026/9期**	
	上期	下期	上期	下期	**上期**	下期
売上高	4,757	5,023	4,939	4,629	**5,239**	**4,669**
プロフェッショナル	3,362	3,328	3,531	3,220	**3,357**	**3,452**
コンシューマ	364	340	398	346	**398**	**347**
インダストリー	730	987	679	547	**992**	**639**
ニュー・インダストリー	297	364	330	514	**492**	**230**
営業利益	56	59	261	5	**267**	**▲6**
プロフェッショナル	▲65	▲119	28	▲118	**▲63**	**▲44**
コンシューマ	▲1	▲9	15	4	**8**	**▲3**
インダストリー	97	186	169	70	**240**	**53**
ニュー・インダストリー	25	2	47	49	**81**	**▲11**
EBITDA	165	194	351	103	**361**	**95**
経常利益	41	70	240	10	**223**	**▲13**
親会社株主帰属当期純利益	11	64	172	▲0	**143**	**5**
営業利益率	1.2%	1.2%	5.3%	▲0.0%	**5.1%**	**▲0.1%**
経常利益率	0.9%	1.4%	4.9%	0.2%	**4.3%**	**0.3%**

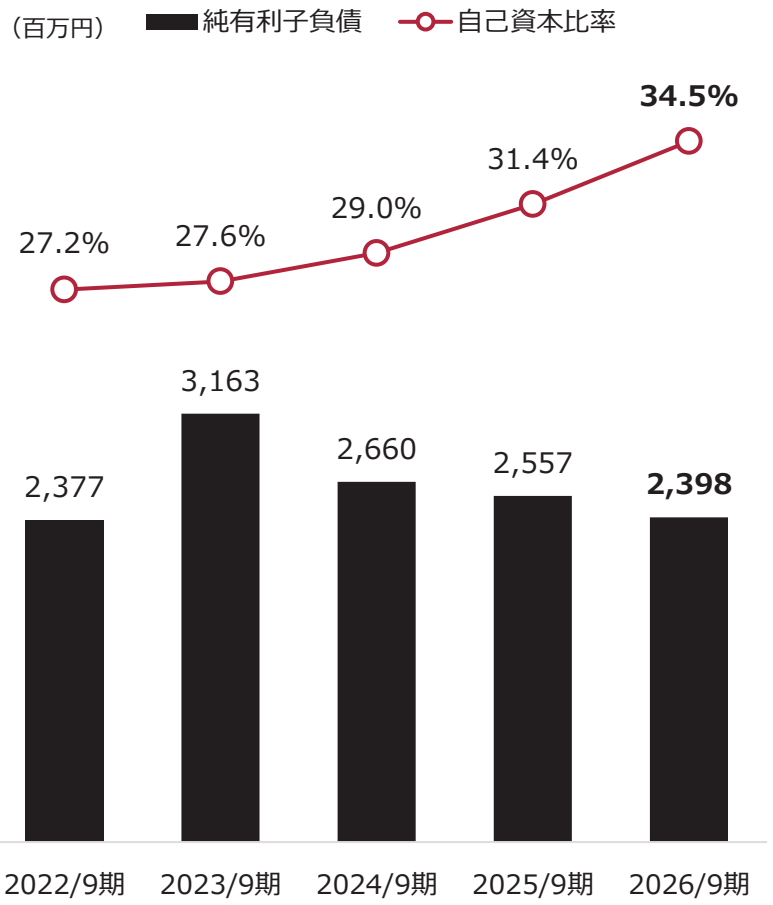
©KLASS Corporation

バランスシートの状況

- 総資産は前期末比5%減の93億円。運転資本圧縮等により、バランスシートのスリム化が進捗
- 純有利子負債は3期連続で減少。財務安定性は着実に向上
- 期末の自己資本比率は34.5%。2020/9期の単独決算時に記録した35.2%に肉薄する上場来最高水準を回復

（百万円）	24/9期	25/9期	**26/9期**	前期末比増減
流動資産	5,660	5,322	**4,913**	▲409
現預金	1,475	1,308	**1,429**	+121
売掛債権	2,605	2,412	**2,139**	▲272
棚卸資産	1,373	1,352	**1,260**	▲92
固定資産	4,464	4,456	**4,411**	▲45
総資産	10,124	9,779	**9,324**	▲454
負債	7,191	6,713	**6,108**	▲604
買入債務	1,673	1,502	**1,010**	▲492
有利子負債	4,136	3,865	**3,827**	▲37
純資産	2,933	3,066	**3,215**	+149
負債及び資本	10,124	9,779	**9,324**	▲454

純有利子負債と自己資本比率の推移



©KLASS Corporation

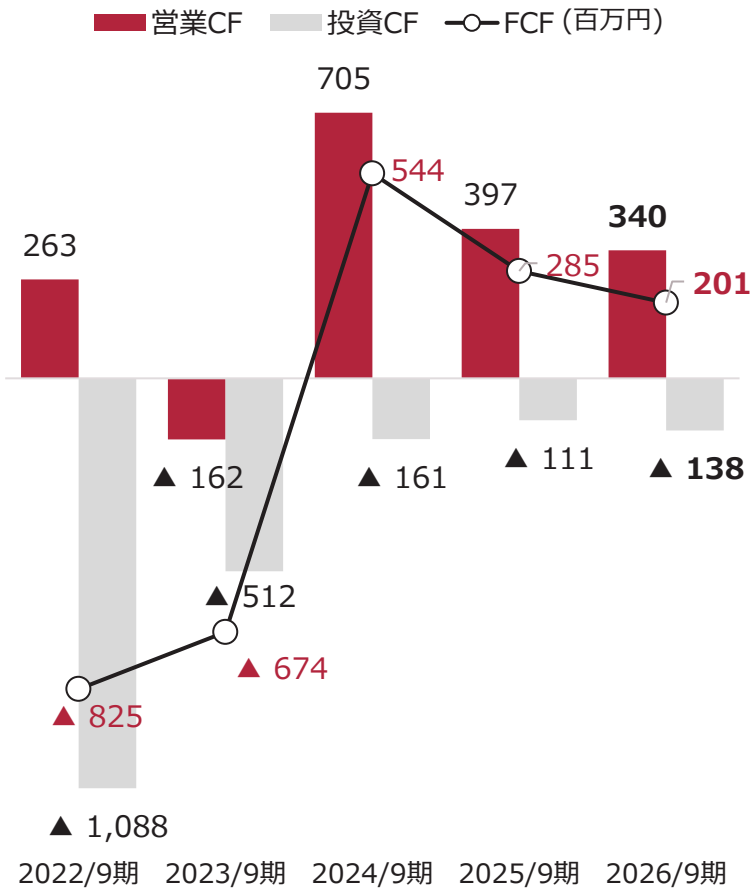
キャッシュフローの状況

- FCFは3期連続で黒字を計上。大型投資の一巡、安定的な黒字計上が奏功
- FCFは借入金返済と配当支払、手許流動性確保に充当

（▲：CF流出、百万円）	24/9期	25/9期	**26/9期**
営業CF	705	397	**340**
税引前当期純利益	117	251	**196**
運転資本増減	448	55	**▲30**
売上債権増減	653	205	**369**
棚卸資産増減	73	21	**92**
仕入債務増減	▲279	▲170	**▲492**
投資CF	▲161	▲111	**▲138**
固定資産取得	▲133	▲73	**▲85**
FCF	544	285	**201**
財務CF	▲282	▲456	**▲114**
借入金増減	▲222	▲395	**▲52**
配当金支払額	▲53	▲53	**▲53**

＊ FCF=営業CF+投資CF　で算出

CFの推移

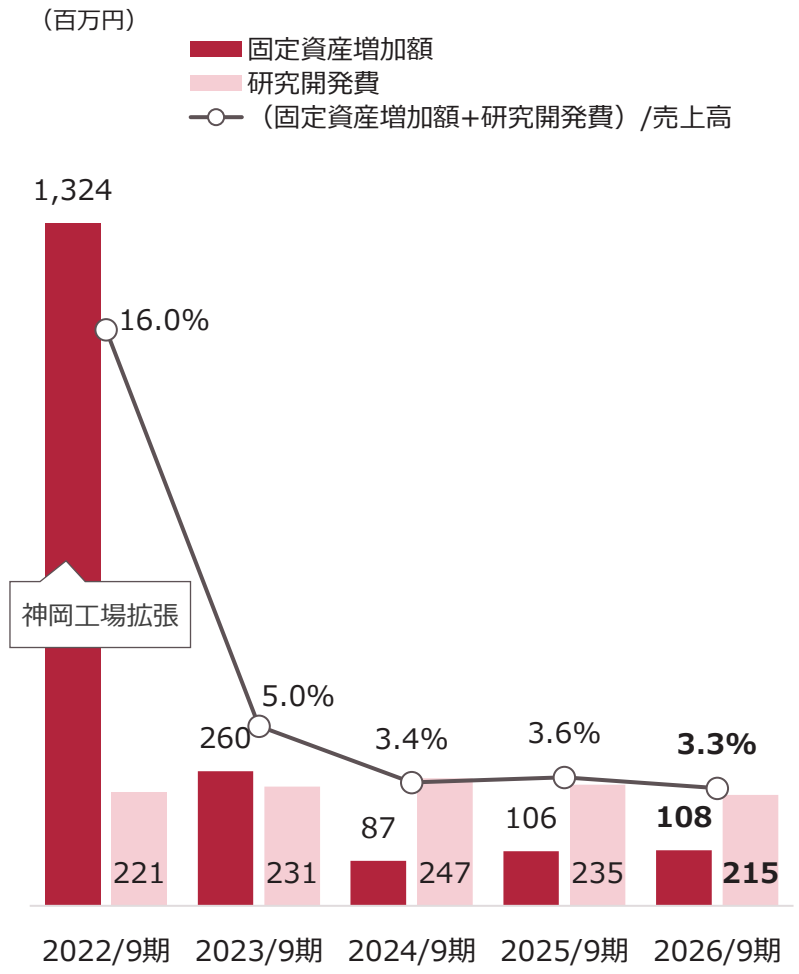


©KLASS Corporation

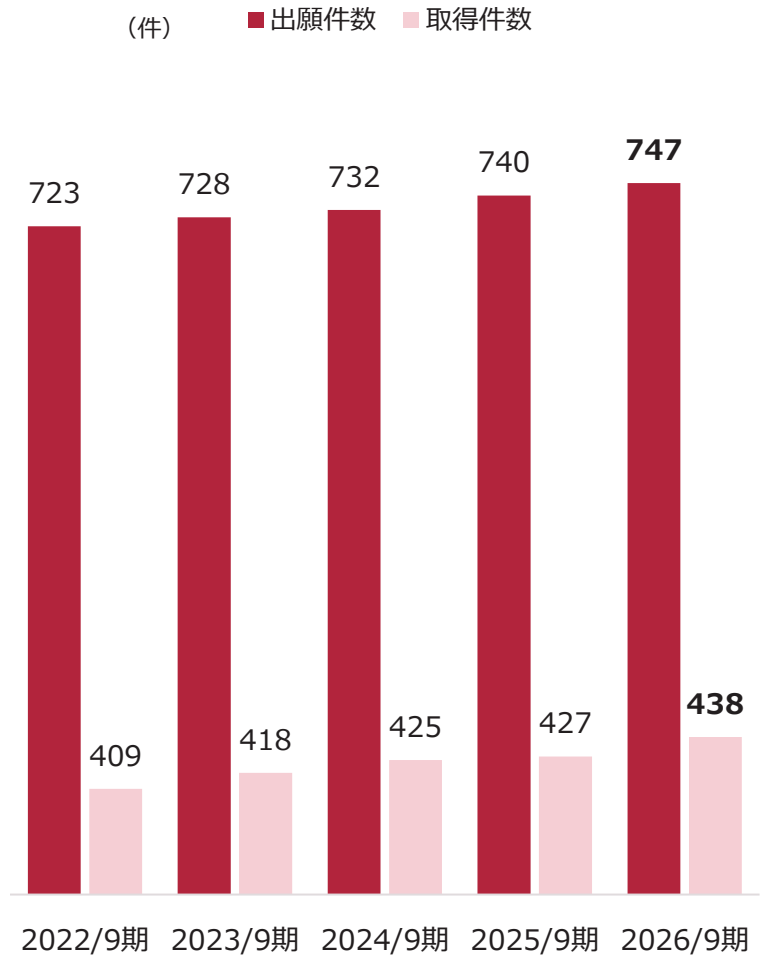
投資、特許件数の推移

- 投資＆研究開発は売上高の3%強を安定的に継続
- 特許出願、取得状況は堅調に増加中。オリジナル製品を生み出す源泉としての「無形財産」たる知的財産の蓄積を更に強化する

投資＆研究開発費の推移



特許取得件数（累計）の推移



©KLASS Corporation

2027/9期決算見通し

KLASS
つなぐ。ツクル。

©KLASS Corporation

2027年9月期決算見通し

- 2027/9期は増収増益を予想。売上は8%増、営業利益では36%、経常利益では55%の大幅増益を見込む
- セグメント別には、引き続き堅調に推移するインダストリーに加え、コンシューマとプロフェッショナルの2セグメントが伸長し、増益を牽引する見通し。コンシューマは防音・防振などの特殊機能マットの用途拡大に、プロフェッショナルはホームセンターなど周辺分野の販路拡大に、それぞれ注力する方針
- 一方、ニュー・インダストリーは増収ながら高収益の消耗品ニーズの後退を踏まえて保守的に減益を想定

（百万円）	2025/9期	2026/9期	2027/9期 見通し	2027/9期 前期比 増減額	2027/9期 前期比 増減率
売上高	9,569	9,909	**10,670**	+760	+7.7%
プロフェッショナル	6,752	6,809	**7,220**	+410	+6.0%
コンシューマ	745	745	**900**	+154	+20.8%
インダストリー	1,227	1,631	**1,750**	+118	+7.2%
ニュー・インダストリー	844	722	**800**	+77	+10.7%
営業利益	267	260	**355**	+94	+36.1%
プロフェッショナル	▲90	▲108	**13**	+122	黒字転換
コンシューマ	20	5	**44**	+39	8.1倍
インダストリー	239	293	**292**	▲1	▲0.4%
ニュー・インダストリー	97	69	**6**	▲63	▲91.4%
EBITDA	454	456	**546**	+89	–
経常利益	250	209	**325**	+115	+55.1%
親会社株主帰属当期純利益	172	149	**210**	+60	+40.1%
営業利益率	2.8%	2.6%	**3.3%**	+0.7pt	–

©KLASS Corporation

セグメント別見通し

プロフェッショナル

- ホームセンターをはじめとする周辺分野への営業強化やマイナス要因の除去による損益分岐点の引下げにより、増収増益を目指す
- S&N事業は設置3年目でもあり、思い切った販促策により一定の成果を目指す

コンシューマ

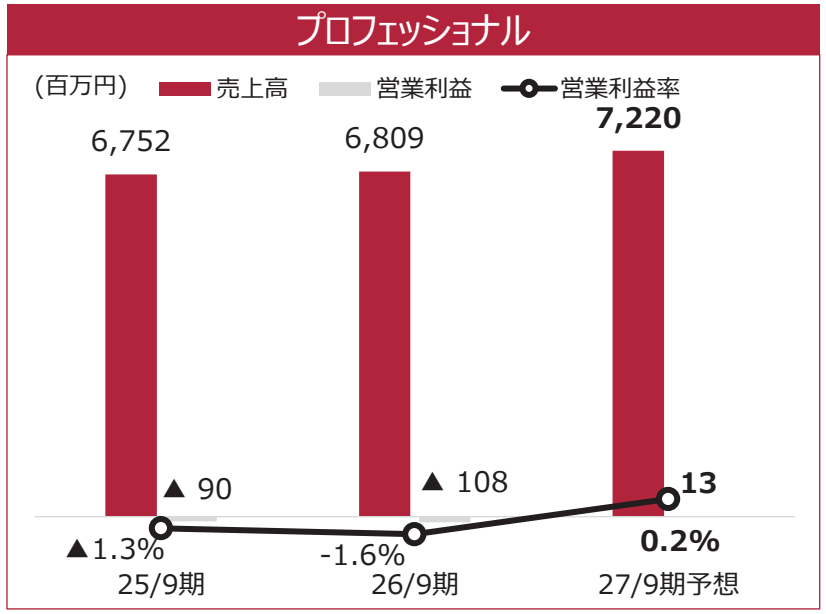
- 特殊機能畳では宿泊、施設設備、事務機器、介護・福祉等の専門商社を活用。フィットネス・スポーツ施設向け防音・防振マットの販路拡大を急ぐ。プロフェッショナルセグメントとのシナジーも想定
- 海外用畳商品のネット販売にも着手

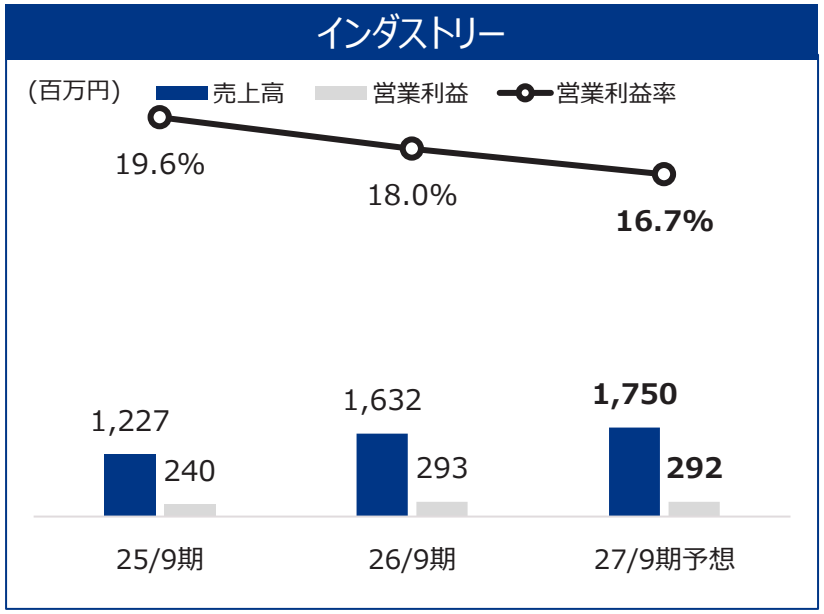
インダストリー

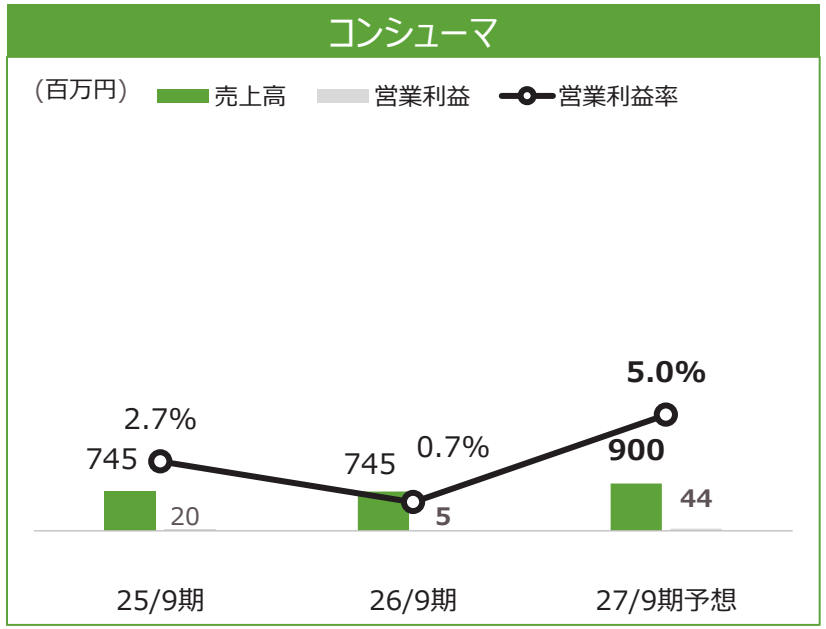
- 大型リピート案件が一巡する中で、新規引き合い案件の増加により、コスト負担増を想定
- 引き続き、引合対応能力の強化、リピート需要獲得に注力

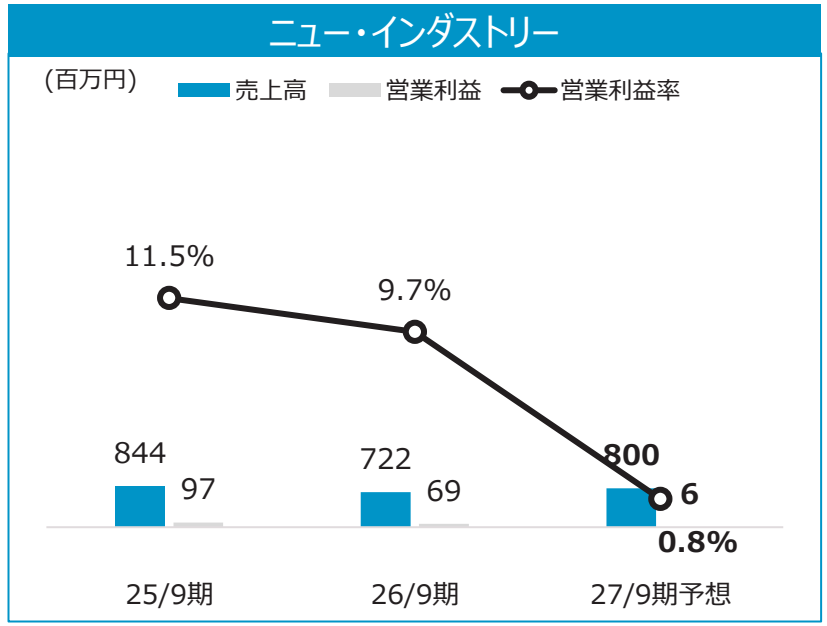
ニュー・インダストリー

- 消耗品需要の減速や新分野開拓に伴うコスト上昇を想定
- インダストリーセグメントとのシナジー効果発現を急ぐ





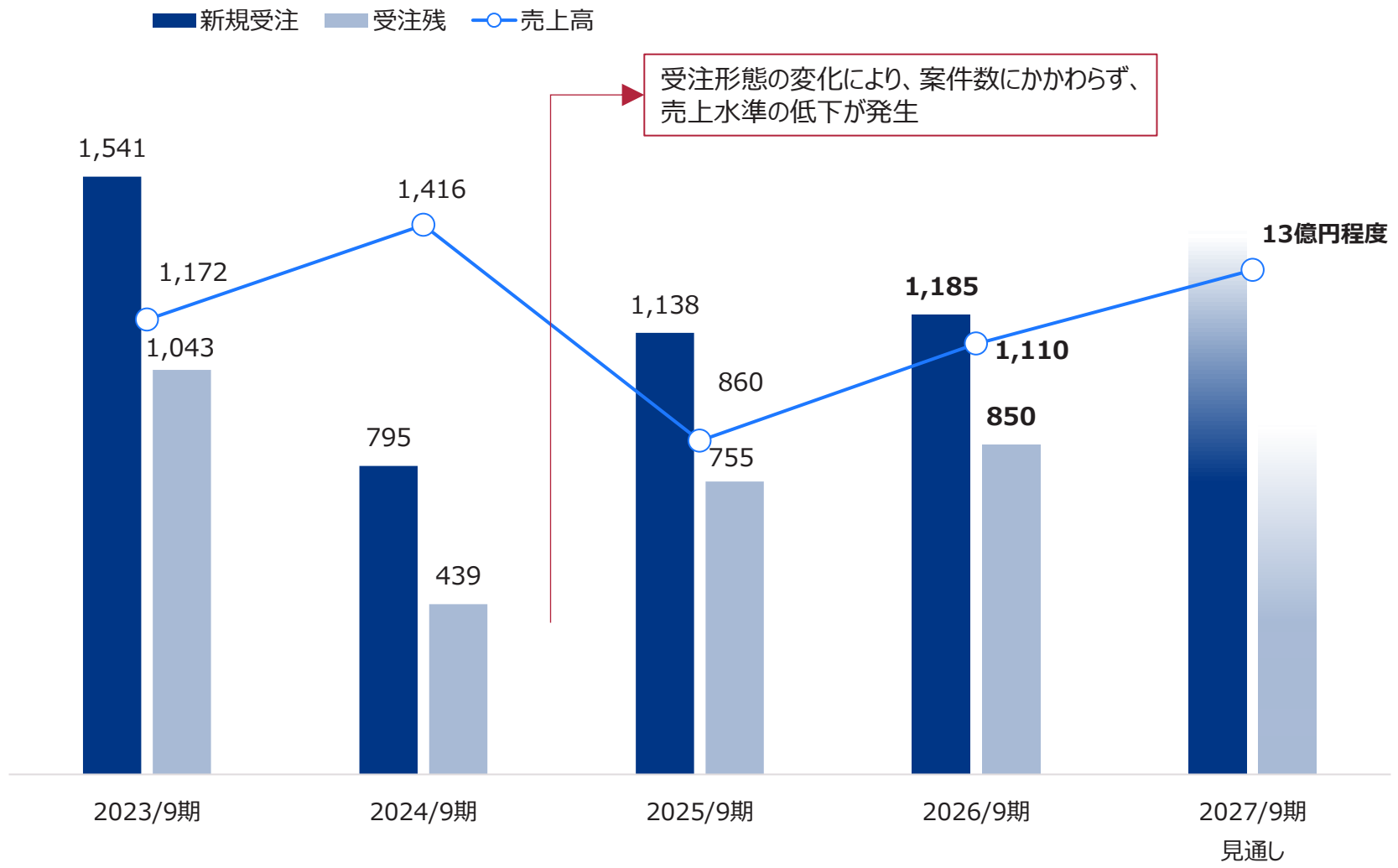




©KLASS Corporation

インダストリーセグメント　産業機器部門の受注状況と売上高

- 2026/9期の新規受注は約12億円、期末受注残は8.5億円。受注は2期連続で拡大し、翌期以降の売上に繋がる受注残も順調に積み上がり
- 2027/9期は受注高で13億円程度を予想。リピート受注に頼ることなく、新製品、新規顧客の開拓進展も想定
- 引合獲得能力強化のボトルネックは構想力を有した開発人材の確保・育成。一段の成長に向け、人員確保を急ぐ
- 「自動化技術の駆け込み寺」の本領を発揮して、引続き「当社ならでは」の産業機械に注力。工場は“畳機械中心”から“産業機械中心”の施設への軸足変化を完了



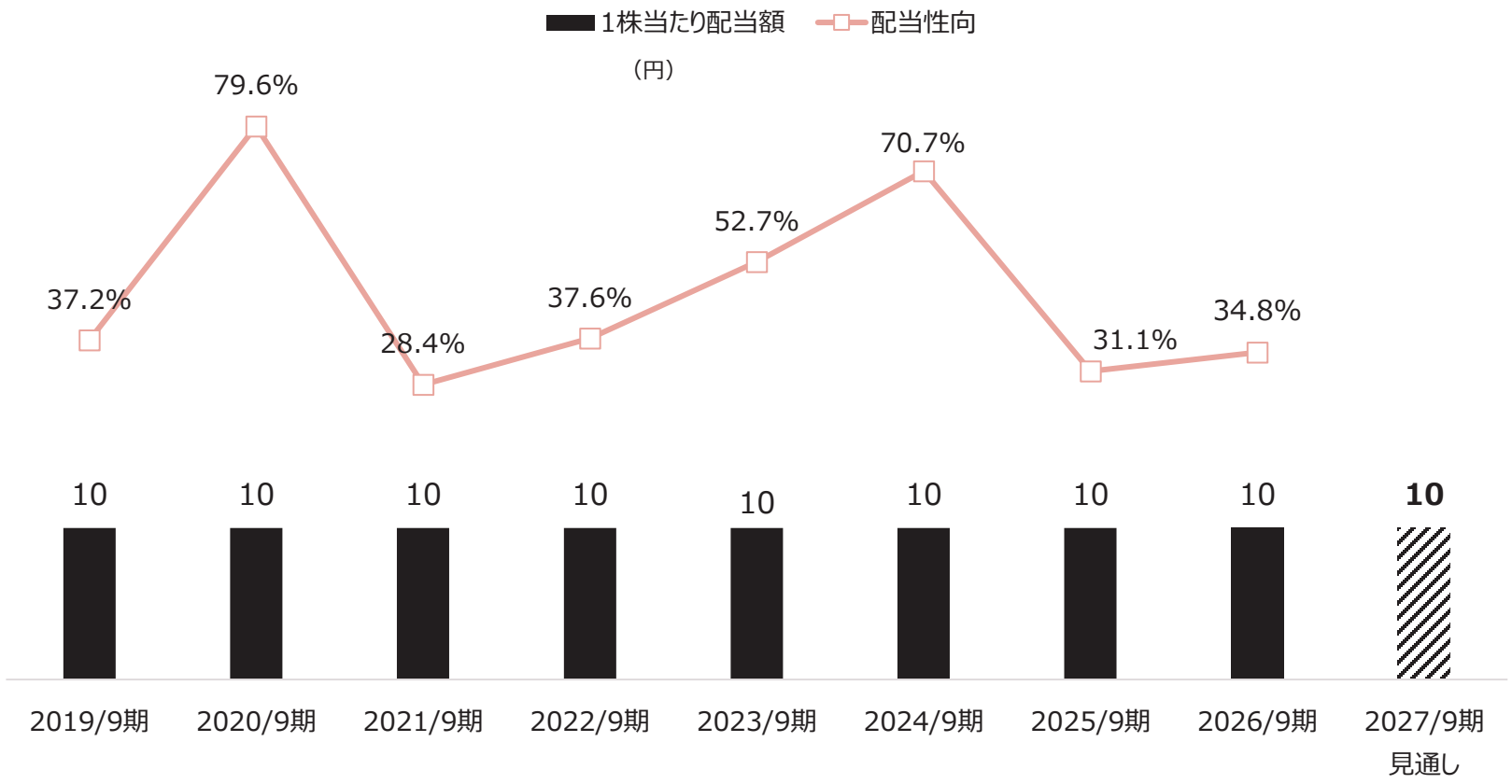
©KLASS Corporation

株主還元

- 当社株主還元方針に基づき、2026/9期は10円配当継続を計画。配当性向は34.8%
- 2027/9期配当も10円を予定

株主還元方針

安定配当の維持を基本としつつ、今後の事業展開等を勘案して配当を実施



©KLASS Corporation

ビジョン80　アップデート

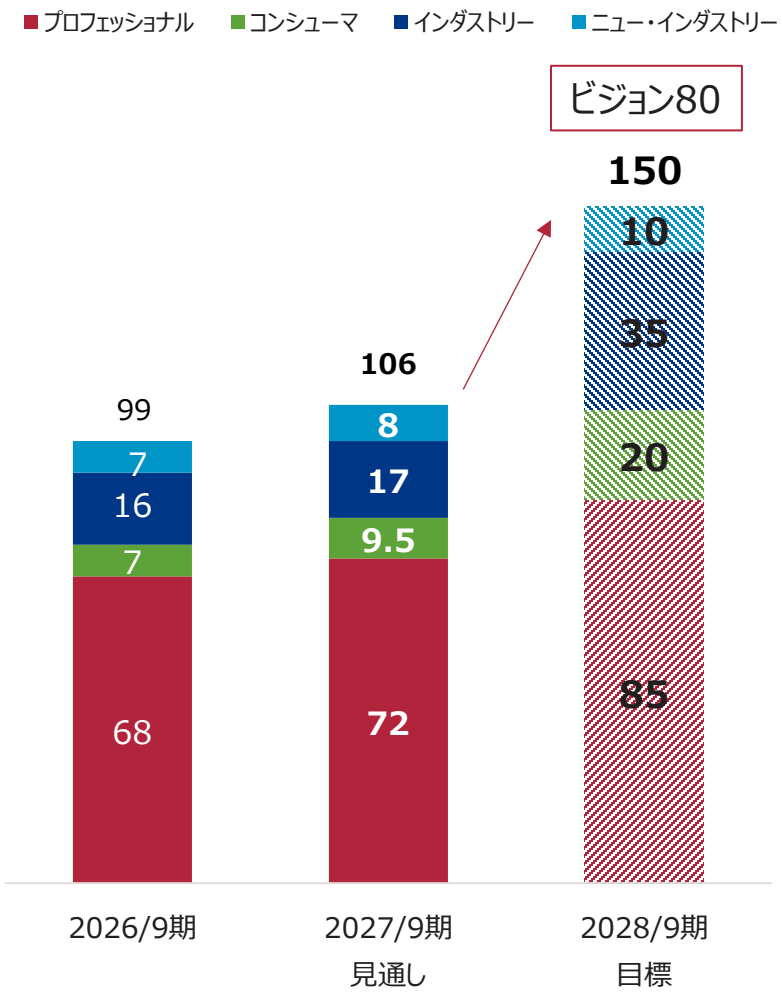
KLASS
つなぐ。ツクル。

©KLASS Corporation

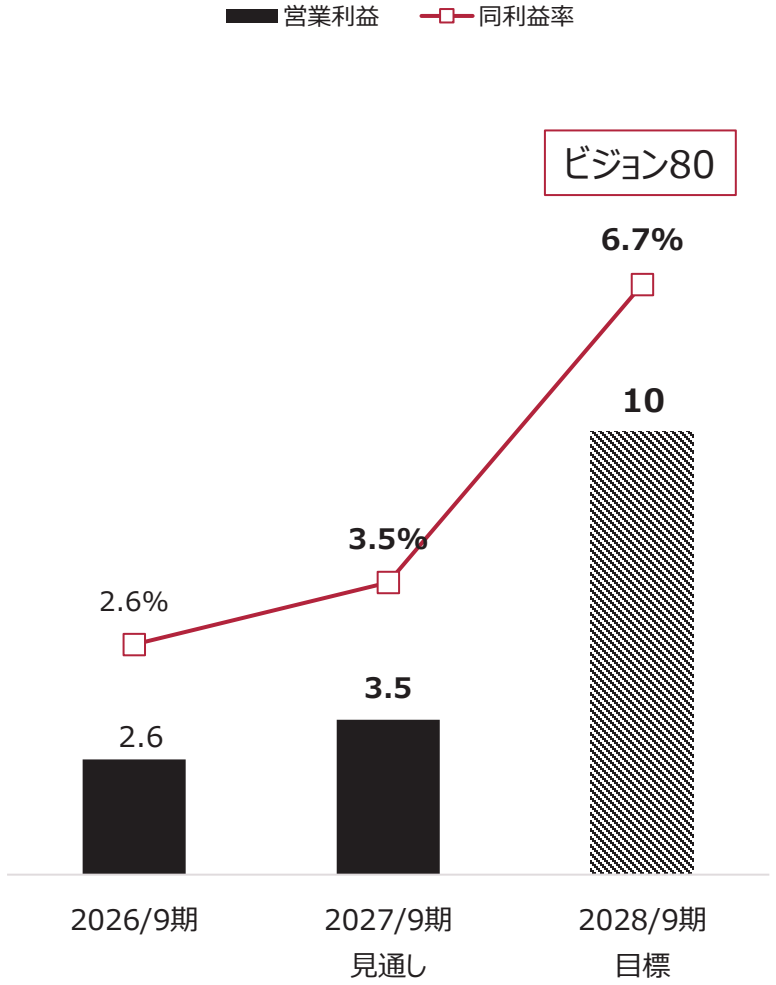
「ビジョン80」アップデート① 進捗状況

- 2023年策定のビジョン80では、2028/9期に売上150億円、営業利益10億円を目指すと設定
- しかし、売上・利益ともボックス圏での推移が継続し、現状は目標達成に向けてのハードルが高い状況。目標達成に近づけるべく、事業拡大のための各種施策を急ぐ
- 特に、成長を担うインダストリーセグメントで、ニュー・インダストリーセグメントとのシナジー効果も発現させつつ、幅広い引合先からの案件獲得機会の拡大を推進

セグメント別売上高目標



営業利益目標



©KLASS Corporation

ビジョン80アップデート② 「2.4次産業」化展開

2.4次産業*：製造業（2次）とサービス産業（3次）の特性を強く帯びた製造業（2次）
モノづくりにサービス業的要素を積極的に取り込み、従来以上の付加価値や顧客拡大を追求

KLASS の2.4次産業化展開

1 顧客ネットワーク活用によるビジネス展開

プロフェッショナル
- ・内装業者、関連住宅建設業者向けクラウド型業務支援システムの提供等S＆N事業
- ・畳関連工具・副資材等のネット販売

コンシューマ
- ・畳替え等の内装リフォーム仲介ビジネス など

2 得意商品による新市場開拓

プロフェッショナル
- ・ホームセンター/ECでの建設業界・職人向け工具・関連商材の販売
- ・建機ルート/防水ルート向け施工機器・工具類の販売

コンシューマ
- ・スポーツ・フィットネス・アミューズメント施設向けオリジナル防音・防振床材の販売 など

3 得意技術による新顧客開拓

インダストリー
- ・コア技術を駆使してオーダーメイド対応する産業機器案件 など

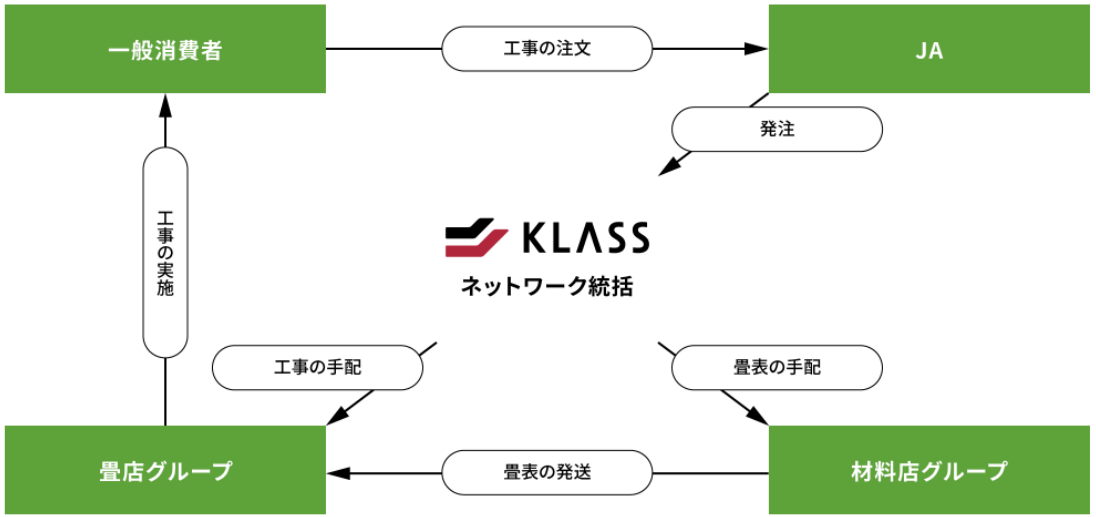
*製造業（2次）とサービス産業（3次）の互いの接近がコロナを契機に加速するが、各々の基本的性格の転換までは行かず、2→2.4で、3→2.6で留まるであろうという一橋大学名誉教授伊丹敬之氏の言説

©KLASS Corporation

ビジョン80アップデート③ 「2.4次産業」化 進捗例 1

1 顧客ネットワーク活用によるビジネス展開

当社製コンピュータ式畳製造装置を有する畳店ネットワークを活用した「畳工事仲介システム」



2 得意商品による新市場開拓

柔道畳に由来する優れた防音性･防振性を誇るフィットネスクラブ向け床材「ジムボード･ネオ」



©KLASS Corporation

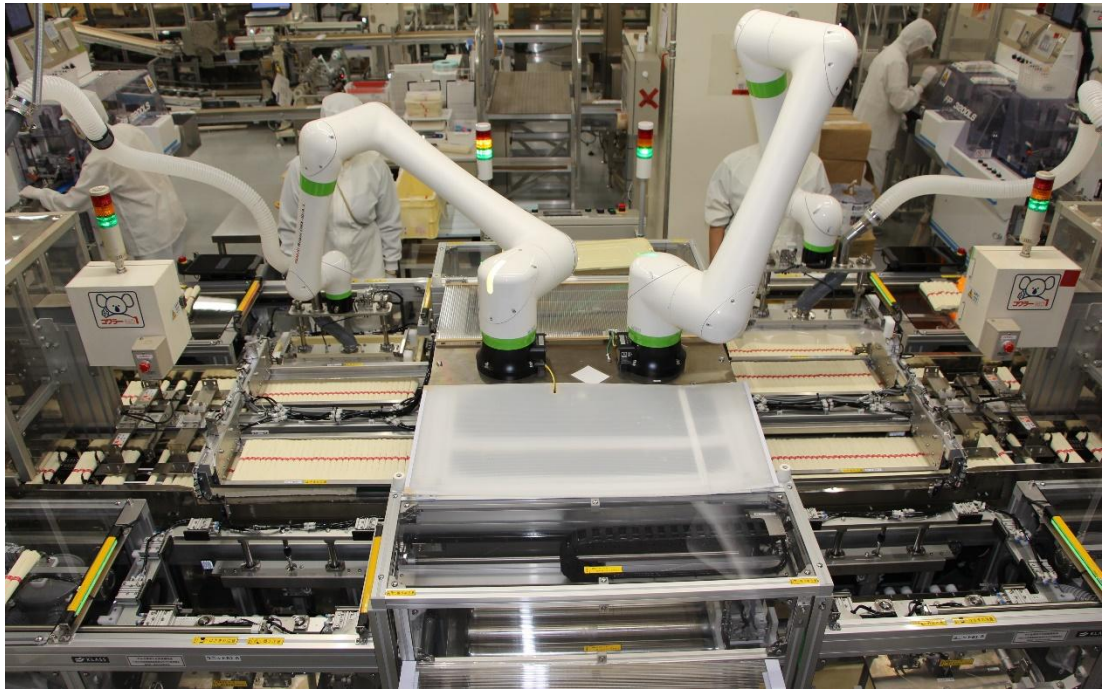
ビジョン80アップデート③ 「2.4次産業」化 進捗例 2

3 得意技術による新顧客開拓

2台の協働ロボットを活用して4人分の省人化が実現した自動化システム「そうめん投入装置」



そうめん投入装置 導入前

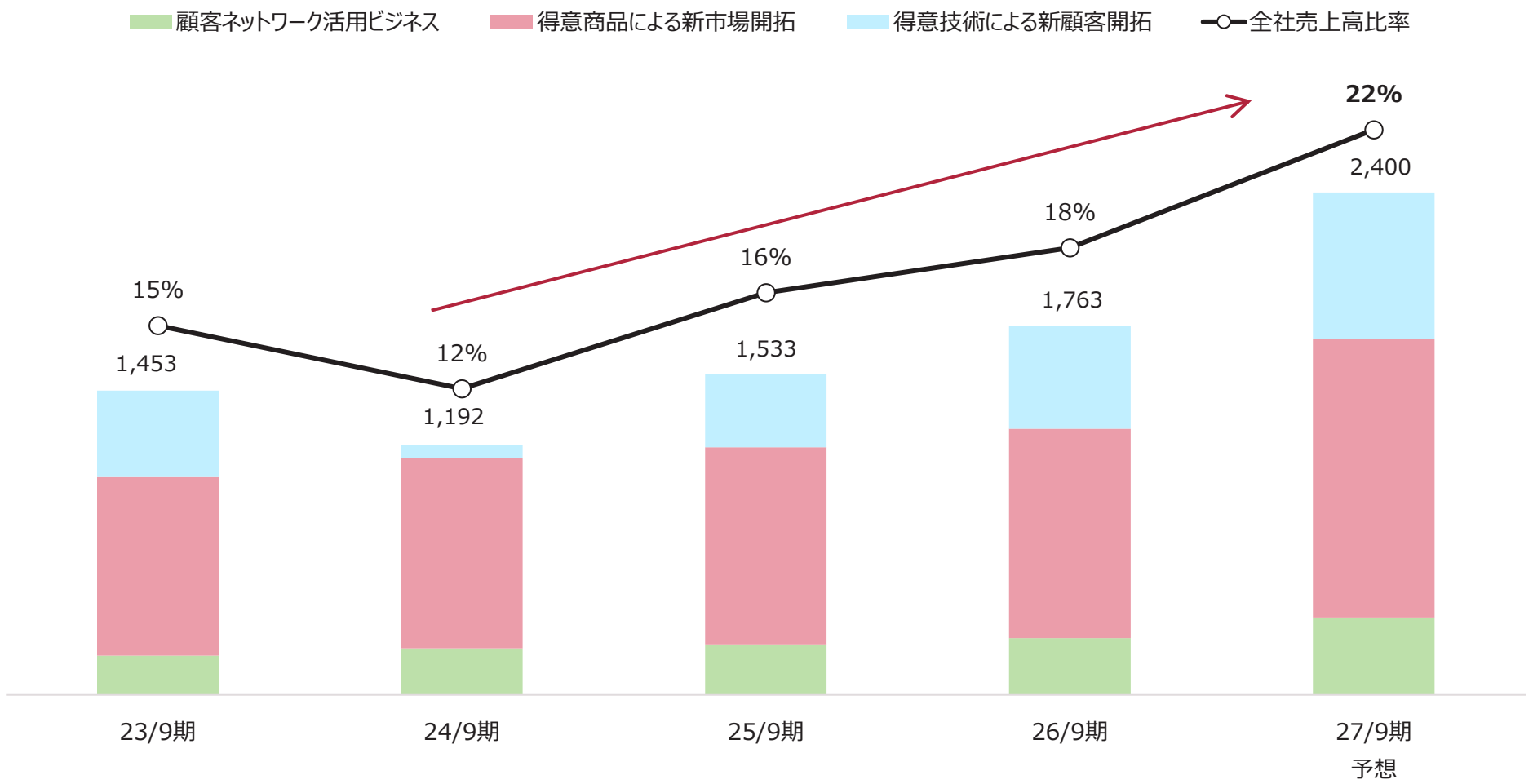


そうめん投入装置 導入後

©KLASS Corporation

ビジョン80アップデート④ 「2.4次産業」化 進捗状況

- 「2.4次産業」とカテゴライズする領域の売上は着実に拡大。2027/9期は24億円を想定
- 全社売上に占める「2.4次産業」売上は22%に到達し、全社売上の5分の1を「サービス的要素を多く取り組んだモノづくり」が占めると予想



©KLASS Corporation

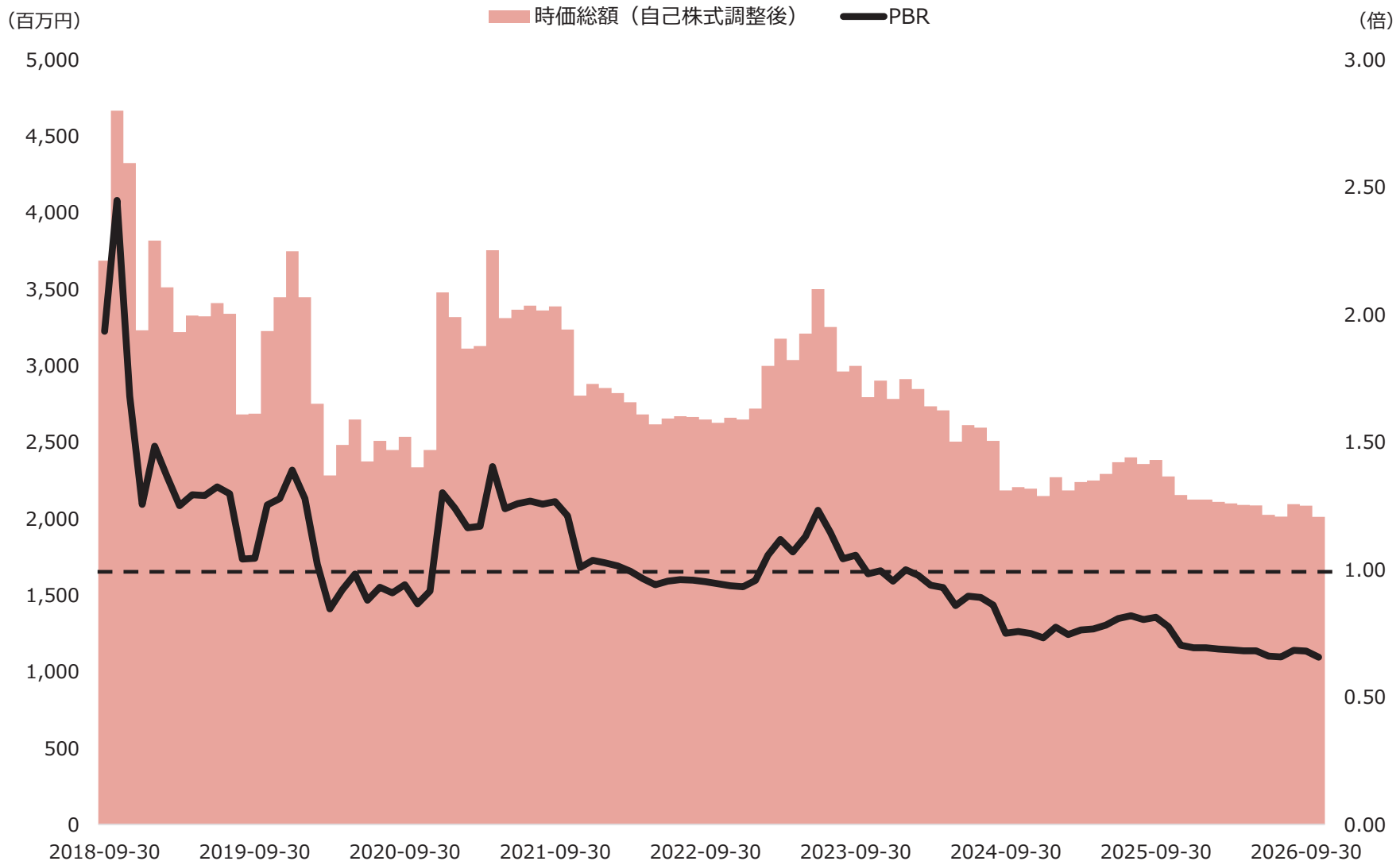
Appendix

KLASS
つなぐ。ツクル。

©KLASS Corporation

時価総額とPBRの推移

- PBRは引き続き1倍割れ状況継続。資本市場は当社のROEが資本コストを下回っているとの認識
- ビジョン80の施策加速などにより、可及的速やかなROE水準回復を目指す。資本市場より期待されるアクションを推進



©KLASS Corporation

KLASSの強み　職人技術の自動化・省力化ノウハウ

畳製造装置や自動壁紙糊付機等の住宅に関わる製品や、地元産業との異業種交流から始まった食品機器の開発を通じ、長年培ってきた7つのコア技術を活用した産業機器の開発・製造やFactory Automation化の提案で、ものづくり現場に貢献

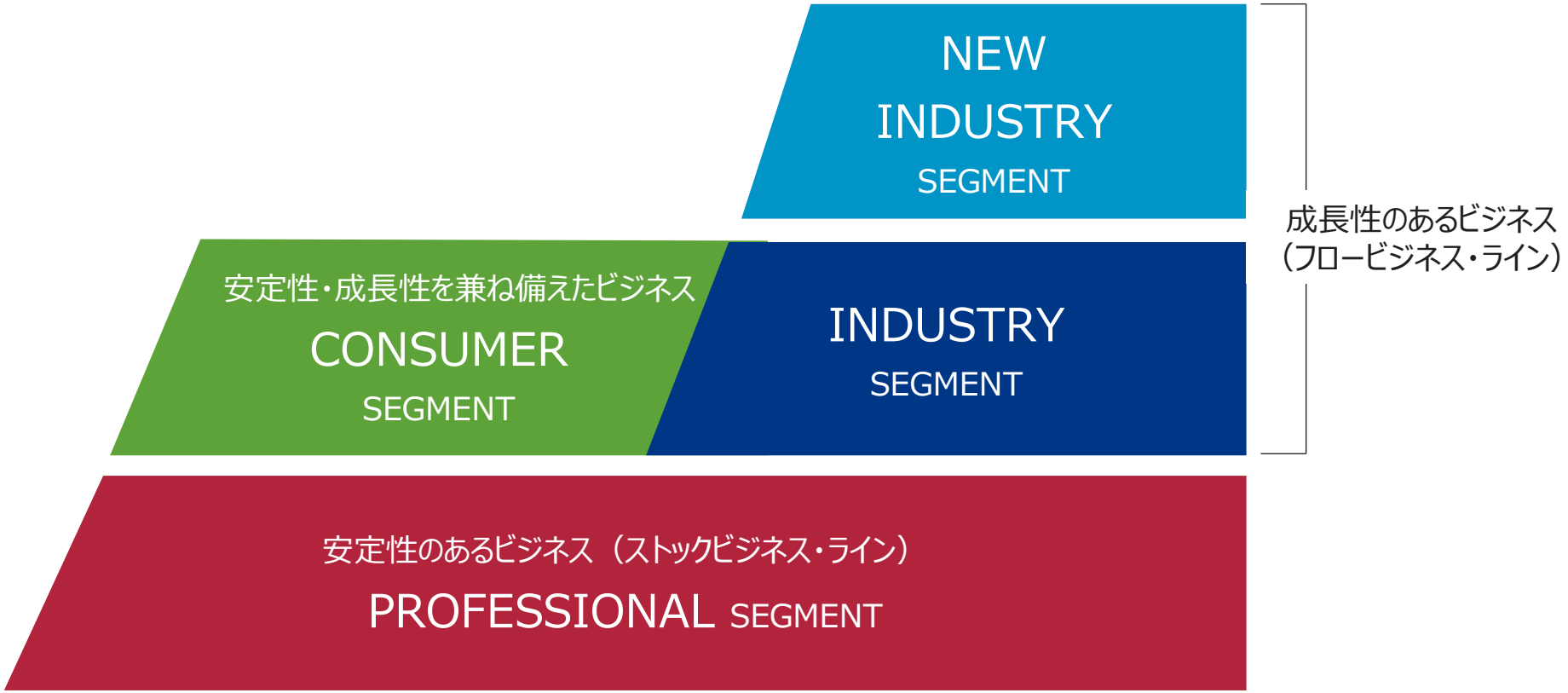


	当社のテリトリー 創業来この分野への挑戦を継続	通常の機械メーカー のテリトリー
対象物	**形状が不均一 破れやすくシワになり易いモノ 機械化の困難なモノ**	規格製品 変形せず掴み易いモノ 機械化の容易なモノ
	経験とノウハウの蓄積 → 機械化の実現	
Point	**• 職人技術の世界への参入 • 全ての要素技術が同時に満たされなければ職人と対抗不可 • その結果、他社では実現困難な機能の提供が可能に**	• 多数の企業が参入可能 • 要素技術は分業化傾向

©KLASS Corporation

KLASSの強み　安定性と成長性の2本柱

- 当社はこれまで、創業以来の「プロフェッショナルセグメント」が、技術力と商品力を駆使して新商品を開発し、新市場を作り続けてきた
- 今後とも、「安定性」のある「プロフェッショナル」と「成長性」のあるその他3セグメントが、それぞれの強みの相乗効果を発揮してさらなる発展を遂げていく



©KLASS Corporation

決算ハイライト

		2022年９月	2023年9月	2024年9月	2025年9月	2026年9月
売上高	(千円)	9,660,071	9,888,009	9,781,915	9,569,361	**9,909,321**
経常利益	(千円)	194,796	283,732	112,050	250,672	**209,507**
当期純利益	(千円)	143,422	102,307	76,273	172,739	**149,919**
資本金	(千円)	631,112	631,112	631,112	631,112	**631,112**
発行済株式総数	(株)	5,391,000	5,391,000	5,391,000	5,391,000	**5,391,000**
純資産額	(千円)	2,841,288	2,915,188	2,933,339	3,066,309	**3,215,868**
総資産額	(千円)	10,430,851	10,575,752	10,124,388	9,779,325	**9,324,520**
１株当たり純資産額	(円)	527.05	540.76	544.13	590.88	**614.57**
１株当たり配当額	(円)	10.00	10.00	10.00	10.00	**10.00**
１株当たり当期純利益金額	(円)	26.60	18.98	14.15	32.12	**28.76**
自己資本比率	(%)	27.2	27.6	29.0	31.4	**34.5**
自己資本利益率	(%)	5.1	3.6	2.6	5.8	**4.8**
配当性向	(%)	37.6	52.7	70.7	31.1	**34.8**
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	263,057	▲162,264	705,569	397,008	**340,235**
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	▲1,088,497	▲512,18	▲161,018	▲111,373	**▲138,355**
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	757,699	390,093	▲282,904	▲456,226	**▲114,365**
現金及び現金同等物の期末残高	(千円)	1,087,351	803,000	1,064,646	894,055	**981,570**
従業員数	(人)	295	298	300	293	**290**
(外、平均臨時雇用者数)	(人)	(29)	(29)	(27)	(19)	**(20)**

©KLASS Corporation

＜ 見通しに関する注意事項 ＞

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、
将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

問い合わせ先
管理本部総務部　IR担当
0791-62-1771　(代表)
ir-info@klass-corp.co.jp

©KLASS Corporation